

抗議文

東洋史院生会

六月二十日、貴評議会は文学部選出の評議員の抗議・退場した席に於いて、福田・鈴木正副両マスター・プラン委員長の独断的「答申」にもとづいて調査費計上を「決定」した。

これは昨年六月十日、土地確保・移転意向表明を「決定」した事に引続く、許し難い暴挙である。我々は断固これを撤回し、五日間の授業放棄を行うものである。

我々は今回の「決定」を次の点で糾弾する。

第一に、昨年六月十日、文学部選出の評議員の抗議にもかかわらず、貴評議会は全学一致の原則を蹂躪し、土地確保と移転意向表明を敢て「決定」した。

更に、その後、文学部教授会の抗議声明にもかかわらず、これを撤回しないばかりか、マスター・プラン委員会なるものを設置し、非公開に移転の推進を図つて来た。かかる大学の自治破壊に対し、我々は抗議の意志を表して来た。

第二に、そもそも、移転と云う全学員成員の研究・生活に深刻に係る問題が、その審議過程に於いて、我々には、何等、発言の場が与えられて来たかつた事に対し、我々は再三に渉り、その権利を主張して来た。

況や、当初より非民主的マスター・プラン委員会に於いて、今回統一した結論も出せぬままに、正副両委員長の「答申」を事後承認させると云ふ様さである。かかる醜態とせず、「大学の名」を借称して「決定」する事をいふからの貴評議会の行為と意図に対し、我々は大学人としての見識と信義を争うものである。

現在、本館封鎖を始め、大学は異常な事態の内にある。我々は深くこれを遺憾とするものである。だが、かかる事態の由つて来る所以はあけて貴評議会の独断擅断に在る。この中に在って、大学の正常なる事態への回復への道は唯一つ、以下の我々の要求を認める事である。

1. 六月二十日の「決定」を自願撤回すること。
2. 六月十日「決定」を自願撤回し、五学部一致の原則を弁ること。
3. MP委員会を解散すること。
4. 移転騒動と我々院生を加えること。
5. 全学の前に貴会の責任を明らかにし謝罪すべく、全学的大衆団体交渉の場をもつこと。

以上の要求を認める事なく、機動隊の動入等によって事の解決を図らんとするならば、それは「石を以て石」を打つが如き愚挙である事を警告したい。何故ならば、事態の原因は貴評議会の行為と意図にあるからである。大学の自治・学問の自由を守らんとする我々の学問的良心は、機動隊の進駐を以てしても挫くものではないことを理解すべきである。

いたずらに混乱を長びかせることなく、速かに我々の抗議に答へよ。

以上抗議する。

評議会殿